奥内（おくうち）の棚田及び農山村景観

No.38-02

所在地：愛媛県松野町　　選定年月日：平成29年2月9日　　面積：370.3ha　　選定基準：ー(ー)

（1）概要

四国南西部では、四国山地と多くの支脈が東西方向に走るため、西側沿岸部はリアス式海岸である一方、内陸部は無数の山地が広がり平坦地が殆どありません。他方、四万十川はこの地域の中心を源流部として蛇行しながら土佐湾へ向けて東流しています。

奥内の棚田及び農山村景観は、四万十川の支流広見川上流部の奥内川沿いの山間部に位置する江戸時代中期以降に形成された4つの棚田群からなる農山村景観です。古文書等の調査からは、地形条件に沿って、谷部を水田、尾根部を屋敷地、屋敷地周辺を畑として継続して利用されてきたことが確認され、その結果、ヒメアカネ及びアキアカネ等の赤トンボ類を含む貴重な生態系が現在も維持されています。また、山間部ではアラカシ、コジイ、コナラ等の天然生林が広範囲で形成されており、地域本来の希少な山林景観を望むことができます。

平成11年に農林水産省の「日本の棚田百選」に認定されてからは全戸加入の保存会が結成され、体験学習会等の棚田保全活動が積極的に進められています。

奥内の棚田及び農山村景観は、四国南西部の四万十川源流域の山間部を開墾した小規模な棚田群からなる文化的景観であり、四国山間部の厳しい地形条件の中で江戸時代以来現在まで継続されてきた生活又は生業を知る上でも重要です。

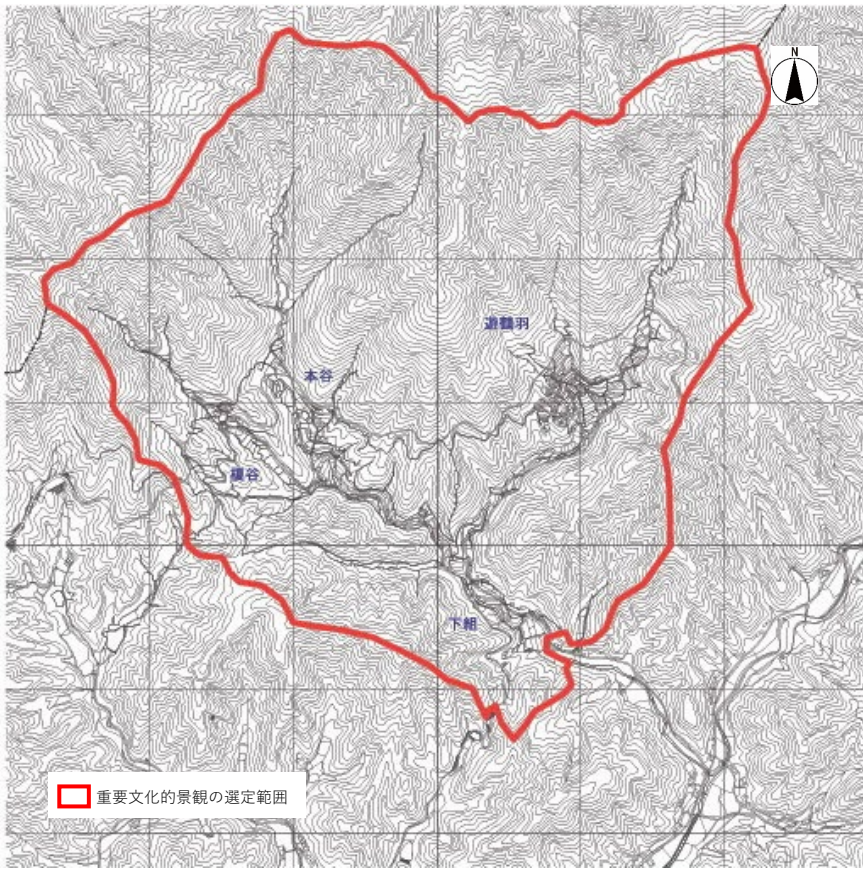
稲刈り体験

棚田と井上家住宅の主屋及び土蔵

棚田での生業（榎谷）

棚田の石垣

（2）選定範囲



- 重要な構成要素：27件

（3） 選定による効果

重要文化的景観に選定されたことで、住民団体「奥内の里保存会」が景観保全を担うようになり活動が活発化するようになりました。また、保存会が主体となって棚田米のブランド化を行い、初めて地域としてコメを販売するようになりました。その他、地元の小学生に対する郷土学習への協力や、観光客への案内対応を担うようになりました。

行政としては、選定を契機に庁内の関係部署の連絡体制が確立し、選定地内における行為への情報共有が円滑に行えるようになりました。

景観保全活動

米袋デザインの検討

（4）保存活用計画などの基礎情報

- 松野町文化的景観調査報告書「奥内の棚田」の文化的景観(平成28年3月、愛媛県松野町教育委員会)
- 松野町文化的景観保存計画書「奥内の棚田」の文化的景観(平成28年3月、愛媛県松野町教育委員会)
- 重要文化的景観「奥内の棚田及び農山村景観」整備活用計画書(令和3年3月、愛媛県松野町教育委員会)
- ホームページ
https://www.town.matsuno.ehime.jp/soshiki/10/1267.html

（5）活用事例

事例38-02 ① 棚田での体験を提供する取り組み

●行政と住民等の協働による取り組み

少子高齢化・過疎化が進むなか、担い手不足による棚田での営農の維持が課題となっています。

そこで、住民団体である「奥内の里保存会」が中心となって棚田での体験を提供することで奥内ファンを増やし、担い手確保につなげようという取り組みを行っています。例えば、棚田米づくり体験では田植え・稲刈りはもちろん、代かきや田んぼの草引きまでをやります。県内の大学生や近隣市街地の若者が参加しています。また、崩れた棚田の石積みを積み直す体験では、専門家によるレクチャーのもと実際に石を積む体験をしました。町内外の石積みに興味ある方が参加しており、将来、棚田の石を積む担い手になる可能性があります。

さらに、地域の子どもに奥内の魅力を発信するため「親子で生き物観察会」や地元小学校で郷土学習としてカリキュラム化した「おくうち棚田学」（詳しくは事例38-02②）を開催しています。

棚田米づくり体験参加者の声（20代女性）
屈んで作業すると普段より目線が低くなり、小さな生き物がたくさん見られました。裸足で踏む泥の感触とともに懐かしい気分になれました。

棚田米づくり体験（田植え）

棚田米づくり体験（稲刈り）

棚田石積み体験

親子で生き物観察会

（５）活用事例

事例38-02 ②　郷土学習「おくうち棚田学」の実施

●行政と住民等の協働による取り組み

奥内集落を校区にもつ松野東小学校は、年間を通じて全学年が奥内の棚田及び農山村景観を学ぶためにカリキュラム化した「おくうち棚田学」に取り組んでいます。これは、奥内の自然・歴史・くらしの3つをテーマにフィールドワークを行い、地域の課題を設定し、その解決策を考え実行する、というものです。同時に、地域住民と交流することで郷土愛や自己肯定感を高める狙いもあります。

フィールドワークでは棚田米づくりも行っており、奥内の里保存会のメンバーが先生となっています。その他、地域の歴史や昔のくらしについても児童に伝えています。11月には、そのお礼として児童が育てた棚田米や野菜を使ったカレーが奥内住民にふるまわれ、交流が深まっています。

さらに、奥内をPRするため棚田を共通点として県内他地域の小学校と交流学習会を実施しています。

R4年度おくうち棚田学受講児童の声（3年女子）
稲刈りはとても暑くてしんどかったけど、楽しかったです。棚田のお米が今まで食べた中で一番おいしいです。

コメの生育状況を観察する（奥内のくらし）

棚田に生息する生き物を観察する（奥内の自然）

奥内集落の成り立ちを知る（奥内の歴史）

昔の遊びを体験する（奥内のくらし）